

No6 地域づくりの第一歩。認知症サポーター養成講座でそっと手助けを。

梅寿荘地域包括支援センター 笹本奏 前川志乃

◎きっかけ◎

認知症の人が住み慣れた地域で生活できるよう、認知症の正しい理解と、地域住民の支援の充実のために『認知症サポーター養成講座』を実施しているが、はたして地域に浸透しているのか。受講後はどのように地域で活用しているのか。それを理解することで、今後の啓発方法や場所等の工夫をどうすれば良いかを考えた。

◎認サポの背景◎

高齢者数の増加
↓
2025年には85歳以上の方では、4人に1人が認知症になると予測
★とても身近な問題

生駒市でも地域や商店、金融機関など様々な場所で開催。
★小学生を対象に『キッズサポーター養成講座』も実施

認知症の人が、住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、地域で認知症の人や家族を支えることが重要!!
★認知症サポーター養成を推進

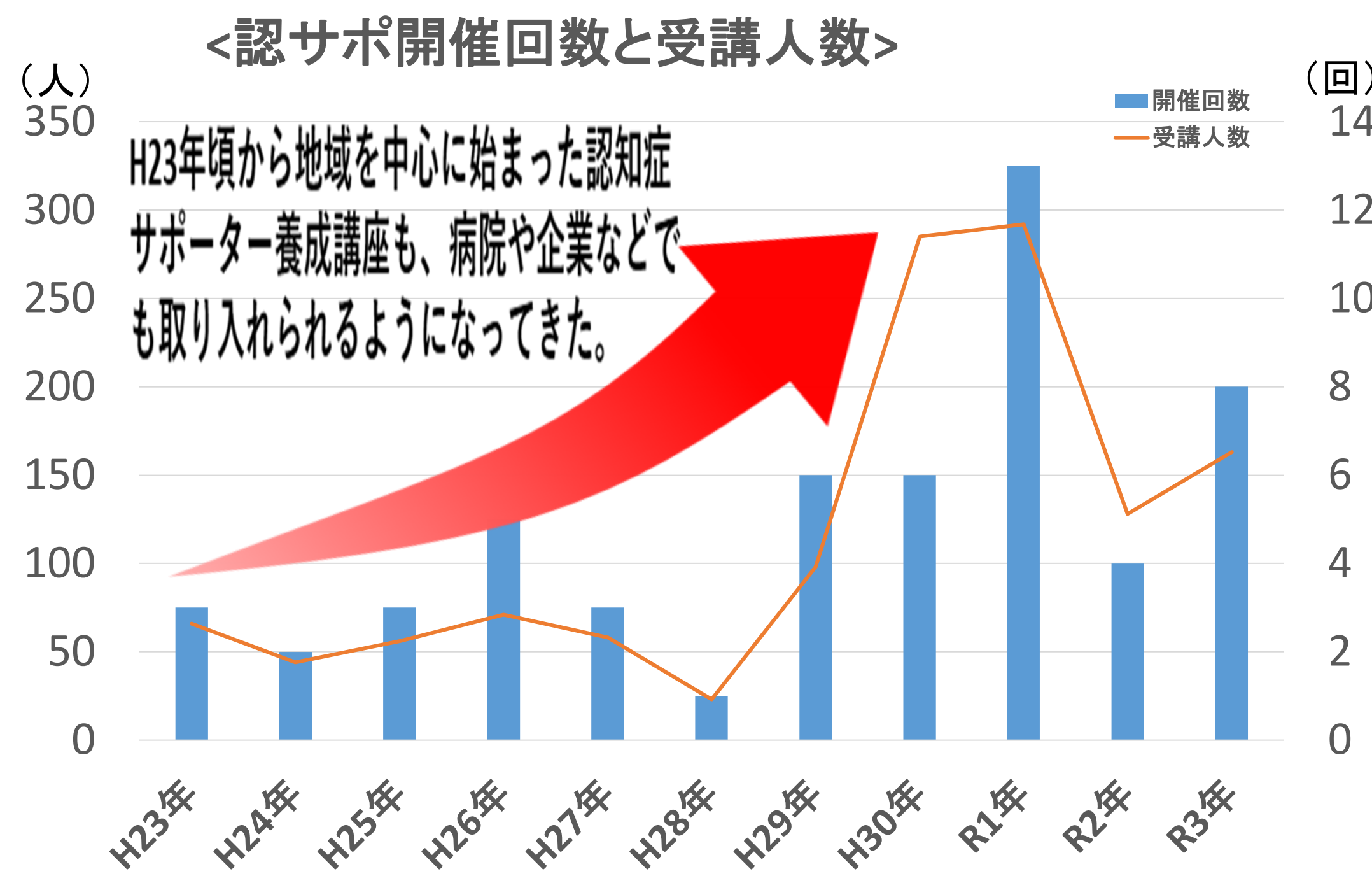
認知症サポーター養成を受けた人を『認知症サポーター』と呼びます。

認知症の正しい知識を学び、子どもも大人も認知症の人や家族に対して自分たちのできる範囲で温かく見守る応援者です。
★受講は誰でも1人からでもできます



◎アンケートの実施・結果◎

※梅寿荘地域包括エリア調べ



* 受講人数は増加しているが受講後、活かしているか

* 認知症サポーター養成講座の受講人数は増えたが20代～50代の人の受講が少ないのはなぜだろう？

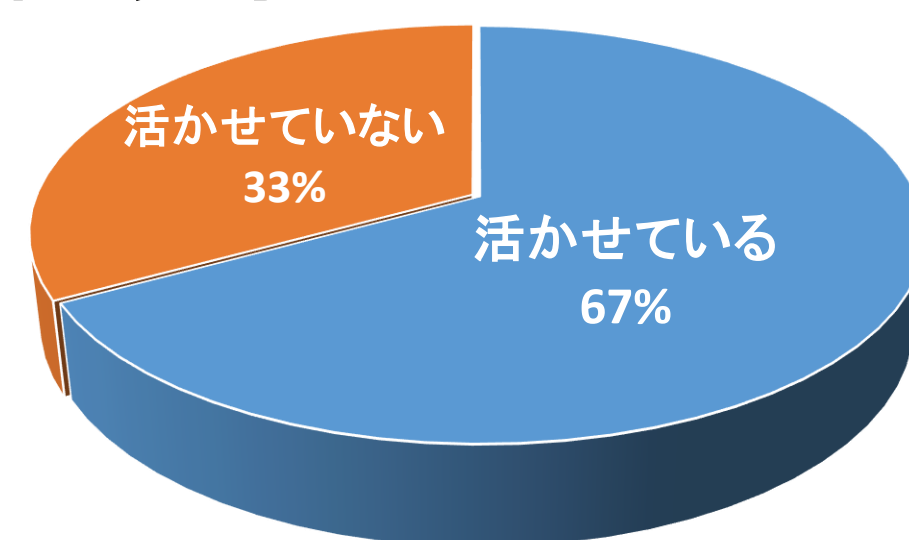
<受講後にアンケートを実施>

～正しい知識があれば・・・～

- ・家族や周囲の人の相談に乗りパンフレットを渡すなど相談機関を伝えることができる
 - ・地域や職場の中で声掛けや対応ができる
 - ・認知症の本人、家族の見守りや声掛けを行う等
- ⇒67%の人が活かしていると返答

～認知症に対する意識は変わったが・・・～

- ・気楽に声を掛け合える地域の力が弱い
 - ・認知症の人と関わることができる場所や集まりがない等
- ⇒33%の人が活かしていないと返答



<聞き取り調査を実施>

～子育て世代や働き盛りの世代が多いため・・・～

- ・地域の他世代との交流がない
- ・高齢者と関わりを持つ機会が少ない
- ・認知症サポーターの存在を知らない
- ・身近な問題ではなく学ぶきっかけが少ない
- 子どもから聞いていたら興味を持てるかな？
- ・積極的に学ぶ企業がまだまだ少ない



ことが分かった

◎これからの課題◎

- ・サポーター養成講座終了後、後追い調査やステップアップ研修などを実施し、地域作りの関心が高まるような働きかけ。
- ・SNSの活用なども取り入れながら、幅広い年齢層に周知してもらえるよう、育友会や中学校、企業などへのアプローチを検討。
- ・かかりつけ医や薬局等との多職種との連携の強化。

レッツ・トライ!! 認サポ!!
興味のある方は包括まで

